

関係は本質に先立つ

—よい関係づくりの第一歩はエポケー(こちらの思考停止)！—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：開倫塾の教育目標の「高い国際理解」とは何ですか。

A：「多様な集団で交流する能力」です。

(1)①現代は「人や、もの、お金が、国境を越え激しく動く、グローバル化社会」です。

②「グローバル社会」で求められるのは、「高い国際理解」つまり、「多様な集団で交流する能力」です。

③「多様な集団」とは何か。「性、年齢、健康状態、国や地域、歴史、言語、宗教、民族、文化、行動様式、思考様式、価値観などが異なる多様な人々が、個人として、集団として交流することが求められる集団」です。

(2)「多様な集団で交流する」とは何か。

①「人間関係を築き、うまくやること」

②「紛争に至らないこと」

③「紛争の状態にある場合には、うまく収めること」

④「さらには、紛争を予防し、平和な状態を構築すること」

Q：そのためにはどうしたらいいですか。

A：(1)①「相手の存在を、あるがままに認識すること」が第一。

②「よい関係をつくること」を第一優先順位とすることです。

③そのためには、「関係は本質に先立つ」「本質的な違い」はさておき、まずは「よい関係をつくること」に励むことです。

Q：では、どのように、「相手とのよい関係」をつくればよいのでしょうか。

A：(1)あるテーマについて話し合いをする場合に、自分の考えを述べないで、まずは、相手の考えを十分に聞くことです。

(2)相手が述べたことについて、その直後に自分の考えを述べない。相手のいっていることを、そのまま繰り返す。更に、「～さんは、～とお考えなのですね」と付加疑問文で確認する。

(3)①たとえば、好きな食べ物について話し合うとします。

②「～さんの好きな食べ物は何ですか」と質問し、～さんが「私はカレーライスが好きです」と答えたとします。

③自分はオムライスが好きな場合にも、その直後に、「私はオムライスが好きです」といわない。

④「～さんは、カレーライスが好きなのですね」と、～さんが言ったことをていねいに繰り返し、最後に「～なのですね」と付加疑問文として確認する。

(4)①その後、「～さんはなぜカレーライスが好きなのですか」と追加の質問をする。

②「おいしくて、おなかがいっぱいになるからです」と～さんが答えたら、「～さんは、おいしくておなかがいっぱいになるからカレーライスが好きなのですね」と、～さんの発言をそのまま再現し、付加疑問文で確認する。

③「自分は、オムライスが好きです」ということを、まだ述べない。

(5)この後も、

①「～さんは、どんな種類のカレーライスが好きなのですか」

②「～さんは、どこお店のカレーライスが好きなのですか」

などと追加の質問をする。

③「野菜カレーが好きです」と答えたら、「～さんは、野菜カレーが好きなのですね」と付加疑問文で確認。

④「～というお店のカレーライスが好きです」と答えたら、「～さんは～というお店のカレーライスが好きなのですね」と付加疑問文で確認。

(6)①～さんへの質問がほぼ終わり、～さんのことがよく分かったら、

②「実は、私は、オムライスが好きなのです。その理由は～」と自分の好きな食べ物や、その理由を述べ、

③～さんに理解していただく。

(7)①～さんが、「私はカレーライスが好きです」と述べた直後に、「私はオムライスが好きです」と自分の好きな者やその理由を述べたらどうなるか。

②～さんの好きな食べ物と、自分の好きな食べ物が、初めからぶつかり合ってしまうので、関係を築くのが難しくなる。紛争の原因になることもある。

③「まずは、～さんの好きな食べ物やその理由などをお聞きして、理解を深める」。次に、順次、「自分の好きな食べものを紹介」し、「お互いの違いを認識」、「相互り合いを深める」。

(8)この「多様な集団で交流する」と直ぐに役に立つ「エポケー実習」は、「関係は本質に先立つ」という命題と共に、渡辺先生が考案し、外務省や JAICA、海外に進出する企業、外国人を受け入れる企業などで数多く取り入れられています。

(9)この「エポケー演習」は、「塾生」「保護者」などの個別面談の際、お役に立ちます。保護者が子どもと話し合うときや、上司が部下と話し合うときにも役立ちます。更には、人と人が出会う様々な場面で役立ちます。ご活用ください。是非、今日から、「ご活用」ください。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：（１）私は、この「エポケー実習」を20年ほど前に上智大学公開講座（コミュニティーカレッジ）の大学院との共通講座で文学部教授の渡辺夫雄先生から３年間ご指導をいただきました。

（２）20年以上たち、ようやく渡辺先生が何を伝えたかったのかがわかってきましたので、皆様にのご紹介させていただきます。

（３）異文化教育方法論の最先端ともいえる方法論です。是非、ご活用ください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、先生方がお読みになれば参考になる本を、何冊かご紹介させていただきます。夏期講習などで忙しいとは思いますが、お時間をつくりお読みください。

（１）一冊目は、この「エポケー」を20年前に教えてくださった上智大学教授、渡辺文夫先生著「日本文化の心、その内と外 異文化のなかの日本人―日本人は世界のかけ橋になれるか―」淡交社、1991年10月16日刊

※「エポケー、渡辺文夫」で検索すると参考になります。是非、お調べください。

（２）二冊目は、上品な面白さで定評のある時代小説家、佐伯泰英著「新・酔いどれ小籐次第19巻～第25巻」文集文庫、文芸春秋2020年～2022年刊。江戸時代の江戸・京都・大阪・九州など各地の様子が目に浮かびます。

（３）三冊目は、作家のエッセイ集、辻邦生著「永遠の書架にたちて」新潮社、1990年7月20日刊です。フランス哲学者、森有正の作品とともにお読みください。

（４）四冊目は、猪浦道夫著「語学で身を立てる」集英社新書、集英社2003年2月19日刊です。語学の先生としての「効果の上がる学習法」が満載で参考になります。

（５）五冊目は、鈴木亘著「入門 社会保障の経済学」新世社、2025年12月25日刊です。中学の調べ学習、高校の探究型学習を担当する先生方のテキストとして最適です。中高生も理解可能です。本質を突くテキストです。

（６）六冊目は、久保田哲著「福沢諭吉 負け続けの偉人」インターナショナル新書、集英社、2006年4月12日刊です。親切、ていねいに福沢先生の一生をたどり、「福翁自伝」「学問のすゝめ」「文明論の概略」などを解説。福沢理解が深まります。

（７）七冊目は、政治思想家第一人者、宇野重規先生の最新著、「政治とは何か」講談社、現代新書、2026年5月20日刊です。よく読めば、中学・高校の教科書に出てくる欧米の代表的な思想家の基本的な考えを理解するのに役立ちます。

（８）八冊目は、中国問題の第一人者、遠藤誉先生の最新著「G 2 構想 勝つのは米国か中国か」PHP新書、2026年7月2日刊です。遠藤誉先生の著作は、すべて、中国問題の本質に迫る一貫した見識を示すもので目が離せません。是非、お読みください。

（2026年7月8日記）